



No.116

窓の市政

「期待」

本市を含む県内3市2町において、11例に及ぶ鳥インフルエンザが発生いたしました。

被害に遭われた関係者の皆様には、心からお見舞いを申し上げます。一日も早い収束を願っております。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、再発令した緊急事態宣言の下ではありますが、国民の努力により、新規感染者数や医療機関の逼迫も減少しつつあり、その効果が表れてきております。

本市を含む各地方自治体ではその準備態勢を進めております。

このような明るい状況の進展により、延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催不安を払拭し、予定通り今月下旬に聖火リレーがスタートできますと、コロナ禍による一年間の苦勞が報われるものと思われれます。

また、2年ぶりに春の全国選抜高等学校野球大会も開催予定であり、下旬にはプロ野球も開幕されます。さらには大相撲春場所も会場を国技館に変更して開催するとのこと。観客制限があるとはいえ、春に向け、スポーツをはじめ恒例行事が開催されることは、楽しみ

でありうれしい限りであります。

そして、昨年苦慮された各学校の卒業式も3密を避けた上で挙行予定とのことであり、特に本年度の卒業生の皆さんには学業・部活・行事などに多くの苦勞や我慢を乗り越えた力をバネに、高く大きく羽ばたかれることを期待しております。

3月定例市議会は、予算議会といわれておりますが、新型コロナウイルス感染症対策にもしっかりと対応してゆく覚悟であります。議会が閉会する頃は、桜の開花も伝わってくるものと思われれます。桜まつりを満喫することは出来ないかもしれませんが、3密を避けながら春のひとときを楽しみたいと思っております。

匝瑳市長 太田安規

八日市場を歩く

匝瑳探訪 178

「御城印」が全国的に静かなブームになっていると、最近知りました。神社や寺院を参拝して受ける「御朱印」と同じように、各地の城や城跡を訪ねポストカードサイズの紙に、城名や城主の武将の家紋が書かれ、印が押されたのが御城印とされます。

昨年末で千葉県内には40余りの御城印があるとされ、匝瑳市でも発行するというところで調査に行きました。市内の城跡調査は昭和50年代に行われ、20を越える中世城郭が確認されました。その代表的なものとして「八日市場城」が匝瑳市の御城印になりました。



新城という字名がある天神山公園

八日市場城は1470年代頃に匝瑳地域に進出したとされる押田氏の居城でした。しかし当時の調査では、現在の若潮町が宅地造成される前に「要害台」と呼ばれたことからその場所と、天神山公園のある台地に「新城」という字名があ

ったことからそこを「新城址」と呼び、八日市場城をどちらにするか、あるいは2カ所合わせるかを検討しましたが、結論には至りませんでした。築城時期が要害台に比べ、遅れて築かれたので新城となったとも考えました。

天神山公園が整備されたことで、昭和50年代の調査時と比べ、城郭だった土塁や空堀などの遺構がより見やすくなり、この場所が八日市場城と呼ぶにふさわしいと感じました。

市内寺院の記録に、「1547年6月16日、八日市場城主押田氏始め200余人(800余人とするものもある)討ち死に」とあり、合戦の舞台になったこともあったようです。

「八日市場城の御城印」発行により、地域の歴史に関心が深まることを望みます。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班
☎ 73・0080

文芸コーナー

短歌

依知川雅一 推薦

春こそ桃の太木おだやかに

隣家の庭で花芽色づく

「眼力」の鋭き野良猫が睨みつけ
また睨みつけ静止画のごと

久々の小春日和に菜園の

春はすぐそこ雑草とり追肥す

告知受け周りの景色変われども
友二人より寝巻が届く

ふるさとに孫子十二人集まりて

笑顔で餅食む去年の正月

出勤す息子の車に杖ふれば

ハザードランプが二度も灯りき

初場所で大栄翔関初賜杯

気迫前面大開めさせ

川口城司 推薦

南の日差しを受けし榎の下

如月待たて落の臺出づ

蜘蛛の巣に飛び入る蠅は忽ちに

糸で巻かれて餌食となれり

小春日の日向に座して昨日今日

箱根駅伝に声援送る

高橋百合子

鈴木 和子

川手 芳

内藤喜代実

木下 昌子

鈴木 志子

大木 洋一

小川 知至

伊橋 良子

石田 秀子

俳句

高安せい子 推薦

山笑ふ時をいざなふ空の蒼

筑波差す川の蛇行や春しくれ

料峭や日はなほ杉の木の上に

マネキンのコート替えるや春時雨

うしろより日の当り来し春時雨

早咲きの桜ほころぶ墓所

春立つや光まばゆし破礫の外

川口城司 推薦

冬鳶に絞め倒されぬ大きタブ

マスクなし「第九」の音色にいやされて

たをれ樹の若葉生まれし杜の晁

川柳

勝又康之 推薦

コロナ禍にウグイス元気春便り

春眠の静寂破る猫の恋

あまびえの雛人形で悪祓い

寒あける明日から春と豆を撒く

梅の花咲き香りして春近し

春なのに出かけられない新コロナ

春風にスカート裾狙われる

椿 和枝

大川 宜子

椎名 晴江

佐々木ゆき子

岩井 やす

安藤 建子

光瀬甲江子

石田 健

野仲 妙子

春日 政彦

岡田けい子

椿 謹二

佐久間美智子

江波戸京子

常世田やす子

宮崎 賢一

安藤 幸恵

川口城司 推薦

取消しても皆が知ってると言ったこと

奥野 道夫

図書館だより

図書館ホームページはコチラ
https://www.library.sosa.chiba.jp



- 休館日…毎週月曜日、4日(木)
 - 祝日開館日…20日(土)
- ☎八日市場図書館 ☎73-3746 (17時まで)

変更はありませんか

春は、門出の季節です。図書館カードの登録内容(住所・氏名・電話番号など)に変更が生じた場合は、変更届の提出をお願いします。

なお、カードの更新のため、3年ごとの誕生日を目安に、住所などを本人確認書類により確認しています。ご協力をお願いします。

芥川賞と直木賞

芥川龍之介賞と直木三十五賞は、文藝春秋の創業者・菊池寛が、友人である芥川龍之介と直木三十五の名

を記念し、昭和10年、同時に制定しました。芥川賞は、新進作家による純文学の中・短編作品の中から、また、直木賞は、新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本の中から、最も優秀な作品に対して贈られます。1月20日に決定した第164回は、芥川賞を宇佐見りんさん「推し、燃ゆ」、直木賞を西條奈加さん「心(うら)淋し川」が受賞しました。

これらの作品は八日市場・のさか両館で所蔵しています。

貸し出し中の場合は、予約できません。

おすすめの本

『未来の自分に会える古書店』

齋藤孝／著 文藝春秋

中学2年生と高校2年生の兄弟が、古書店「人生堂」の店主に導かれ、読書を通じて成長していく姿を、小説スタイルで描きます。ポストコロナ時代を生き抜く青少年に贈る、読書と人生の手引きです。

『泣いたあとは、新しい靴をはこう。』

日本ペンクラブ／編 ポプラ社

自分のこと、人間関係、将来…。逆境のただ中にいるティーンの“どうでもよくない”悩みに、浅田次郎、沖方丁、森絵都、俵万智など44人の日本ペンクラブの作家たちが、言葉で向き合います。